

令和4年3月吉日

保護者の皆様

白山市立北星中学校  
校長 東海林 幸男

## 学校評価の結果について

早春の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に格別のご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。学校評価は生徒たちがよりよい教育を受けることができるよう、教育活動の成果を検証して学校運営の改善を目指すものです。アンケート結果を分析し、改善策を検討し、その結果を報告します。

今後も生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができるよう、教職員一同努めてまいりますので、ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、アンケート結果の詳細はホームページ（「学校案内」→「学校評価」）をご覧ください。

### 1. 確かな学力の育成

数値は1+2（「1よく当てはまる」と「2当てはまる」）の合計%と、1のみの%を表している。

対 象	評価項目	R3年度前期		R3年度後期	
		1+2	1	1+2	1
生 徒	授業のルールを意識し、意欲的に授業に参加している。	96	38	97	42
保護者	お子さんは、意欲的に授業に参加していると思う。	88	24	87	24
生 徒	授業は分かりやすいと思う。	88	27	89	28
保護者	お子さんは、授業が分かりやすいと思っている。	76	13	74	11
生 徒	授業では、自分で考えたことや分かったことを表現することができる（書く、発表する、動く、描く、歌う、作る等）	87	30	87	32
生 徒	家庭学習の習慣が身につけてきている。	81	29	82	30
保護者	お子さんは、家庭学習の習慣が身につけてきている。	66	17	62	18

<今後に向けて> ○良かった点 ▲課題

○**授業のルールを意識し、意欲的に参加している**項目で、肯定的な評価（1+2）をした生徒は96-97%程度である。引き続き100%を目指していく。

▲**授業が分かりやすい**という項目で、11-12%程度の生徒が否定的な評価（「3あまりあてはまらない」+「4あてはまらない」）をしている。

教職員がさらに授業改善の取組を推進し、分かりやすい授業づくりへの意識を高める。また、教科への苦手意識を持つ生徒へ、一層きめ細かな個別指導や、学力に応じた学習課題の設定を行う。

○**授業中に生徒は概ね自己表現**できている。苦手な生徒には表現方法選択させたり、できた場面、部分を認めながら少しずつ力をつけさせたりするなど、工夫が必要である。

○▲**家庭学習**については、各学年、各教科の取組（自学ノート、学習コンテスト等）により、習慣化されている生徒が8割程度いる。一方で、2割程度、学習習慣が身につけていないという自覚のある生徒もおり、個別の声かけを学級担任、教科担任を中心に行い、小さな目標を少しずつクリアさせながら、学習意欲を高めさせるなど、指導に工夫が必要である。

## 2. 豊かな心とたくましい体の育成、安全・安心な学校

数値は1+2（「1よく当てはまる」と「2当てはまる」）の合計%と、1のみの%を表している。

対 象	評価項目	R3 年度前期		R3 年度後期	
		1+2	1	1+2	1
生 徒	学校に行くのは楽しいと思う。	90	48	94	48
生 徒	さわやかな挨拶ができています。	88	43	90	37
保護者	お子さんは、道徳の授業などを通して、道徳的な規範意識を身に付けている。	91	19	91	19
生 徒	読書が好きである。	78	48	74	41
生 徒	中学生らしい身だしなみを心がけ、ルールやマナーを守っている。	97	52	97	55
保護者	北星中生徒は服装や生活ぶりに健全な姿が見られ、さわやかさが感じられる。	98	33	98	28
生 徒	いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できている。	95	75	98	79
生 徒	自分の周りにいじめやからかいがあった時には、どのように（誰に）知らせればよいか知っている。	93	57	98	64
生 徒	日頃から安全に登下校ができるよう努めている。	99	69	99	73
生 徒	部活動に目標を持ち、積極的に取り組んでいる。	93	66	95	63
保護者	お子さんは部活動に目標を持ち、積極的に取り組んでいる。	89	51	84	42

<今後に向けて> ○良かった点 ▲課題

- ▲**学校に行くのが楽しい**という項目で、肯定的な評価をしている生徒の割合が増加している。生徒が主体となり、学校全体や学年の行事を成功させたことが良い影響を与えていると思われる。一方、今年度後期に6%の生徒が否定的に回答しており、生徒一人一人の悩み、不安等の解消に向け、懇談等に取り組む必要がある。
- さわやかな挨拶**という項目では、昨年度と平行して9割前後の生徒が肯定的に回答している。今後はコロナ禍という状況でも、相手に届く挨拶ができるよう、教職員の率先垂範、生徒会の取組を推進する。
- 生徒は概ね**安心して学校生活を送っている**。ただし、否定的な回答がゼロになるよう、日常の教職員の意識を高めること、アンケートを活用した迅速な対応などを行っていく。

## 3. 家庭、地域との連携

数値は1+2（「1よく当てはまる」と「2当てはまる」）の合計%と、1のみの%を表している。

対 象	評価項目	R3 年度前期		R3 年度後期	
		1+2	1	1+2	1
保護者	学校からの各種たより、ホームページ、PTAの会合などから学校の様子がよく分かる。	86	12	86	13
生 徒	家で学校のできごとを話している。	90	49	85	47

<今後に向けて> ○良かった点 ▲課題

- ▲**学校の様子が分かる**という項目は肯定的な回答が減っている。今年度はホームページのたより更新の遅れなどがあったので、改善していく。

## 4. 学校関係者評価（学校評議員とPTA役員）より

- ▲これまで自粛や中止続きだったかと思うが、中学校生活で**部活や行事等**で得られる経験は大変多く、貴重だと思う。中止一辺倒ではなく、少しでも**開催できるよう舵を切る**ことも必要。
- ▲今年度コロナ禍により実施できなかった**PTA行事（愛校作業など）**は次年度、with コロナの観点からできる**限り実施の方向で検討**していきたい。